

災害情報処理システムの必要機能

1 システムの仕様等

・複数の地方公共団体に納入実績のあるパッケージシステムである。
・システム形態はクラウド方式である。
・サーバ等必要な機器はセキュリティ対策を施したデータセンターに設置してある。
・端末機は、本市行政支援システム用PCの他、タブレット、スマホが利用できる。
・本市のすべての職員が同時に利用できること。（職員数：約3,300人）

2 情報の一元化

・大量に発生する災害情報を時系列で画面上に一元化でき、併せて対応状況も表示できる。

3 情報処理の高度化

・整理・検索・抽出の各機能を利用して、事象ごとのデータ分析や集計・出力ができる。
・続報機能を利用して、個別事象の推移が把握できる。
・集計表機能を利用して、施設毎の被害状況や避難者数の集計が行える。
・災害現場からスマホ等を利用して、写真やファイルも添付した情報を入力でき、リアルタイムな情報が表示される。
・災害対応の進捗とともに文字や画面の色が変わるなど、最新の対応状況が簡単に把握できる。

4 情報処理の効率化・迅速化

・操作は簡単、機能はシンプルで使いやすい。
・インターネット経由で操作が行え、PCのほか、タブレットやスマホも利用できる。
・複数の担当者が同時にアクセスできる。

5 情報の共有化

・各部門へ必要な情報が即時に共有できる。
・部門ごとの情報のタイムラグが生じないように、入力と同時に共有化できる。
・情報は自動更新でき、常に画面で最新の状況が把握できる。